

ベーゼンドルファーで学んで楽しむ



©堀田力丸

美女と野獣の

トーク&コンサート with Bösendorfer

真嶋雄大

音楽評論

各回 13:30開場 / 14:00開演



©酒寄克夫

2023
5/21
sun



久元祐子

〈トークテーマ〉古典派ピアノ音楽の様式美

- ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第8番「悲愴」
- モーツァルト：ピアノ・ソナタ ハ長調 K.545
- モーツァルト：ロンドイ短調 K.511
- ショパン：夜想曲 Op.9-2



©Anette Ruhnu

2023
8/26
sat



諸戸詩乃

〈トークテーマ〉大自然の中で森（ピアノ）が謳う

- モーツァルト：幻想曲 二短調 K.397
- モーツァルト：きらきら星変奏曲 ハ長調 K.265
- ドビュッシー：「ベルガマスク組曲」より〈月の光〉、喜びの島
- リスト：「巡礼の年 第1年スイス」より〈オーベルマンの谷〉 他



2023
10/29
sun

©小島竜生

川田知子 三輪郁

(バイオリン)

〈トークテーマ〉
目眩めく色彩の乱舞

- モーツァルト：ヴァイオリン・ソナタ K.454
- バルトーク：ルーマニア民俗舞曲
- フランク：ヴァイオリン・ソナタ 他



2024
1/28
sun

©篠原栄治

©篠原栄治

パスカル・ドウヴァイオン 村田理夏子

〈トークテーマ〉
フランスから見たスペイン音楽

- ラヴェル：スペイン狂詩曲（連弾）
- ラヴェル：道化師の朝の歌
- ドビュッシー：グラナダの夕べ 他



会場

Bösendorfer TOKYO

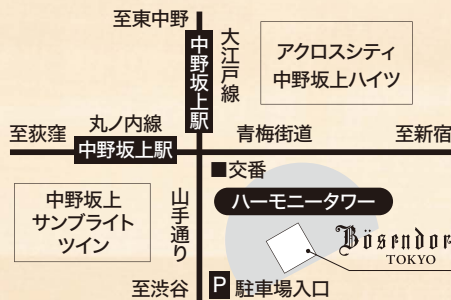
ベーゼンドルファー東京ショールーム内
東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー1F 奥
(丸の内線、大江戸線「中野坂上」駅1番出口 徒歩3分)

チケット

全席自由 3,000円

イープラス
<https://eplus.jp/>

■公演に関するお問い合わせ：ベーゼンドルファー東京 03-6681-5189
受付時間：10:00-17:00（日曜・月曜定休）



久元 祐子 Yuko Hisamoto

ウィーン放送響、ラトヴィア国立響、ベルリン・カルテット、ウィーン・サロン・オーケストラ、読響、新日フィル、東京フィルなど内外のオーケストラや合奏団と多数共演。知性と感性、繊細さとダイナミズムを兼ね備えたピアニストとして高い評価を受ける。2011年ウィーンでのリサイタルは、オーストリアピアノ専門誌の表紙を飾りベゼンドルフアー・アーティストの称号を授与される。2014年よりイタリア国際モーツァルト音楽祭に度々招かれリサイタルを開催。2018年オーストリア大使館に於いて日本オーストリア友好150周年記念演奏会に出演。2019年ファン・デア・ブレネン オーストリア連邦大統領ご臨席のもとベゼンドルフアー・コンサートに出演。2016年～22年、モーツァルト・ピアノ・ソナタ全曲演奏会シリーズを開催。ベゼンドルフアー創設者イグナツ・ベゼンドルフアー制作(1829年製)のピアノ、ブロードウッド(1810年頃製)、ブレイエル(1843年製)など19世紀オリジナル楽器を所蔵。それら歴史的ピアノの演奏会や録音にも数多く取り組み、ショパン生誕200年には全国でブレイエルを用いた演奏会に出演。また音楽を多面的に捉えることを目指したレクチャー・リサイタルは朝日新聞・天声人語にも紹介される。「優雅なるモーツァルト」(毎日新聞CD特賞盤、レコード芸術特選盤)などCD16作をリリースし、「ベートーヴェン:テレーゼ、ワルトシュタイン」はグラモフォン誌上「どこからどう考えても最高のベートーヴェン」など絶賛される。東京藝術大学卒業、同大学院修了。園田高弘賞、毎日21世紀賞などを受賞。『モーツァルトのピアノ音楽研究』(音楽之友社)『作曲家が愛したピアノからアプローチする演奏法』(学研プラス)など著書多数。国立音楽大学及び大学院教授
<http://www.yuko-hisamoto.jp/>



諸戸 詩乃 Shino Moroto

愛知県生まれ。10歳のときにウィーンへ移住。ウィーン国立音大ピアノ準備科を経て、15歳でウィーン国立音大ピアノ演奏科に入学。エリザベート・ドヴォルーク・ヴァイスホール、故ハンス・ライグラー、故ポール・ヒルに師事。また、マスタークラス等において、フィリップ・アントルモンや遠山慶子にも教えを受けた。2018年3月同大学院を卒業。さらに19世紀時代考証演奏法のクライブ・ブラウン博士(ペーレンライター社監修者)のもとで薫陶を受ける。演奏活動では、ウィーン・フィガロザールでのソロリサイタルを皮切りに、ベゼンドルフアー社やシューベルト連盟主催のコンサートに多数出演。またイタリアにおいても、ボローニャ歌劇場管弦楽団首席メンバーと各地でたびたび共演し、好評を博した。2023年より、楽友協会ベゼンドルフアーサロンにてチクルス「虹の音色」シリーズを開催する。わが国においては、2005年、NHKのテレビ番組「スーパーピアノレッスン」にシリーズ最年少の生徒役で出演。そのモーツァルト演奏は講師のアントルモンから「きわめて洗練されたモーツァルト」との評価を受けた。また、日本・オーストリア国交150周年の2019年には、ウィーナ・ノイシュタットでの記念コンサートに、日本人ピアニストの代表として出演し、多くの聴衆に喝采を浴びた。その他浜離宮朝日ホール、電気文化会館ザ・コンサートホール、愛知県芸術劇場コンサートホール、宗次ホール等に出演し、好評を博した。これまでに、カメラータ・トウキョウから、「モーツァルトピアノソナタ集」、「シューベルト即興曲集作品90&楽興の時」、「モーツァルト変奏曲集-トルコ行進曲付き」(レコード芸術誌特選盤)の3枚のアルバムをリリースしている。



川田 知子 Tomoko Kawada

東京藝術大学を首席で卒業。1991年第5回シボア国際コンクール優勝。ソリストとして国内外で活躍しているほか、コンサートミストレス、室内楽や後進の指導など多方面で活躍。2003年度、第33回エクソモビル音楽賞、洋楽部門奨励賞受賞。平成15年度国際交流基金派遣事業でトルコ及びエジプトでリサイタルを行い、2007年にはイエヌー・ヤンドゥー(ピアノ)とブダペストでデュオ演奏会を行う。チェンパロの中野振一郎の他、様々な器楽奏者との共演に意欲的に取り組んでいる。マイスター・ミュージックよりCDを10枚リリース。2017年7月にJ.S.バッハの無伴奏ヴァイオリンソナタとパルティータの新譜が発売された。2019年、J.S.バッハ無伴奏全曲演奏会を行い、絶賛された。宮崎国際音楽祭には毎年参加し、ピンカス・ズーカーマンと室内楽で共演。洗足学園音楽大学講師、東京藝術大学非常勤講師。



三輪 郁 Iku Miwa

今、もっともウィーンの薫りを伝え得ると思われる日本人ピアニスト三輪郁はウィーン・フィルの主要プレイヤーをはじめ、エマニュエル・パゴ、ラデク・パボラク、ハンスヨルク・シェンベルガー、ブラジャーク・クワルテット、ミハル・カニユカ、セバステイアン・マンツなどと度々共演している。ウィーン国立音楽大学・大学院を最優秀修了。「パルマ・ドーロ」国際コンクール第一位受賞。ウィーン楽友協会・ブラームスザールやウィーン・コンツェルトハウスでのコンサートのほか、ドルトムント・フィル、ドイツ・ハレ歌劇場管、ノルウェー放送響、オールボー響、セウイリア王立響、ニース響、ソフィア・フィル、さらに日本の主要オーケストラからもソリストとして招かれている。特にウィーン・フィル第一コンサートマスターのフォルクハルト・シュティデとは長年デュオを組んでおり、2021年広島交響楽団定期にも招かれて共演した。『バルトーク:ピアノ作品集』(Miwa Iku-Schubert)《Mozartiana / Iku Miwa》などのCDをリリース。それぞれ『レコード芸術 特選盤』に選ばれるなど好評を博している。現在、山形大学教授、桐朋学園大学講師。



パスカル・ドゥヴァイヨン Pascal Devoyon

リーズ国際コンクール他上位入賞に加え、1978年のチャイコフスキー国際コンクールでは、フランス人過去最高位の2位を獲得。世界にその名を知らしめた。協奏曲のレパートリーも50曲を超え、これまでNHK交響楽団、ロンドン・フィル他、世界を代表するオーケストラと共演。室内楽も大きな位置を占め、M.ロストロポーヴィッチ、T.ツィンマーマン、S.イッサーリス、ドンスキカンなど著名演奏家と共演、録音は40を超える。夫人の村田理夏子とピアノデュオを結成。リリースしたCDはレコード芸術特選盤を受賞。<リストそして悪魔>は、名だたる“Liszt Society”より大絶賛を受賞。ソロでは、近年<ドビュッシー前奏曲全集>をリリース。レコード芸術特選盤を受賞。執筆活動も盛んで「ピアノと仲良くなれるテクニック講座」をはじめとする著書はいずれも大好評を博す。パリ高等音楽院教授を経て、ベルリン芸大教授、英国王立音楽院客員教授、桐朋学園大学特任教授、MusicAlp 夏期国際音楽アカデミー(仏)芸術監督を歴任。数々の国際コンクール審査を務める。核心をついた丁寧かつ熱心な指導法には定評があり、教えを乞う者が後を絶たない。2003年からはドミニク・メルレ氏の後任として、ジュネーブ音楽院教授も務めた。フランス芸術文化勲章「シュヴァリエ」、ロイヤルアカデミー名誉会員称号をそれぞれ受賞。コンサートイマジノ所属。
<https://www.pascal-devoyon.com>



村田理夏子 Yuko Hisamoto

東京藝術大学卒業後、ドイツ政府給費留学生(DAAD)としてベルリン芸術大学に留学、満場一致の最高首席にて卒業。Konzertexamenに進学し、ドイツ国家演奏家資格取得。ポルト国際コンクールをはじめ数々の国際コンクール入賞。2003年より15年間、ベルリン芸術大学ピアノ科講師を務めた。世界の殿堂ベルリンフィルハーモニーホールにてソリストとして毎年招聘され、これまで30回近くオーケストラと共演。協奏曲のレパートリーは30曲近くに及ぶ。Pascal DEVOYONとの本格的なピアノデュオにも力を入れ、リリースしたCDはレコード芸術特選盤に選ばれる。室内楽経験も豊富で、世界各地の国際音楽祭にて演奏を重ね、共演者にはS.イッサーリス、P.ヴェルニコフ、ドンスキカンをはじめ、多数の著名演奏家が名を連ねる。ラジオフランス響のソロオーボエ奏者Hélène Devilleneuve女史より共演依頼を受け、フランスオーボエ作品集のCDをリリース。2023年には、初ソロCD『Voyage de l'esprit』をリリース。音楽雑誌への記事の寄稿、マスタークラスなど、音楽教育活動にも幅広く積極的な力を入れている。2022年より「NAGAREYAMA 国際室内楽音楽祭」を始動、総合プロデューサー兼、芸術監督に就任。第一線で活躍する演奏家を国内外より積極的に招聘し、質の高い国際室内楽音楽祭を目指す。コンサートイマジノ所属アーティスト。
<https://www.rikakomurata.com>



真嶋 雄大 (音楽評論)

5歳からピアノを、中学から作曲を学ぶ。1973年に『ソプラノと和洋合奏のための変奏』を発表、自ら指揮して注目された。朝日新聞、「音楽の友」等媒体、演奏会の曲目解説、CDやDVDのライナーノート、音楽劇の台本等旺盛な執筆活動とともにNHK-FM等への出演、コンクールの審査を続け、また全国のホールなどでレクチャー・コンサートやプロデュースを展開して好評を博している。その模様が2017年「日経ビジュアル音楽堂」で紹介された。著書に「ピアニストの系譜(音楽之友社)」、「グレン・グールドと32人のピアニストたち(PHP研究所)等、監修や共著多数。最新作は「Big Appleのための幻想曲」、「Big Appleのための5つの情景」。現在日本演奏連盟専門委員、YCC県民文化ホール・アーティストック・アドバイザー、富士山河口湖音楽祭アドバイザー等。「真嶋雄大の面白クラシック講座」主宰。
<http://ameblo.jp/office-claret/>

© 堀田力丸

※ 許可のない録音、録画、写真撮影はご遠慮くださいますようお願い致します。 ※ プログラムは都合により変更になる場合がございます。 主催: ベゼンドルフアー・ジャパン